



# 那霸市立教育研究所 所報

第3号

平成29年6月1日発行

所長 儀間 稔



学びを支える学級経営

所長 儀間 稔

 梅雨に入り、曇り空が続いているが、各園・学校では、雨雲を吹き飛ばすくらい元気な声が響いています。那覇市教育委員会では、平成二十九年度「那覇市学力向上推進要項（ふくぎじんぶなうプラン）」を作成し、各学校へ配布しております。各学校では、既に御活用いただいていると思います。

今年度は、小中学校の具体的取り組み事項として、①児童生徒一人一人が大切にされ、よさや可能性を高め伸ばす学級経営、②「確かな学力」の向上、③基本的な生活習慣の形成、④学力向上マネジメントの四つを挙げております。その中で、特に学級経営に関わる項目について確認します。

- ①授業の基盤となる支持的風土をつくる学級経営  
○教師と児童生徒の信頼関係、児童生徒間の人間関係を築くこと、児童生徒が安心して自分の思いや考えを表現できる支持的風土をつくる学級経営を目指す。

○学習環境を整える  
○児童生徒理解に努める  
○お互いの考え方を尊重し認め合える学級  
○学級経営に係る校内研の充実

②合意形成や意思決定・自己有用感を大切にした学習活動の展開  
○生徒指導の「自己指導能力」の育成を目指すという積極的な意義を踏まえ、合意形成・意思決定・自己有用感を活かした活動に取り組み、児童生徒一人一人が大切にされ、よさや可能性を伸ばす学級経営に努める

③学級経営PDCAサイクル  
○目指す学級の姿を明らかにし、児童生徒及び学級の実態を把握し、学級経営案・教科（専科）経営案を立て、実践をしながら適宜振り返る。  
○学級経営チエックシートを作成し、評価する。

④児童会・生徒会を中心とした活動の推進  
○小学校では、日常の学級活動で、児童のよさや可能性を伸ばす活動の充実を図る  
○中学校では、各学級と中央委員会との連携を大切にする。「各種員会」の活動と学級活動、学校行事等を関連させることが大切である。

多くの児童生徒は、家庭での生活時間に次いで、学校での時間を過ごします。また学校で過ごす時間の大半は学級で生活します。その学級が児童生徒にとって、安心できる場なのか、それとも不安を抱える場になつていなか等、教師はしっかりと見なければなりません。学びの場である学級が、児童生徒にとってどのような場であるのかは、学力の向上に影響を与えるのは、言うまでもありません。全ての児童生徒が自己存在感、自己有用感、所属感等を感じることのできる支持的風土のある学級づくりに取り組んでほしいと思います。「ふくせき　じんぶなうフラン」では、具体的な取り組み内容も記載されておりますので、ぜひ再読し、実践をお願いします。

学級終常に關わる最新本(研究部藏書・貸出可)

- 学級経営の教科書  
著者：白松賢（愛媛大学教授）  
出版社：東洋館出版

○学級経営は、「問い合わせ」が9割  
著者：澤井陽介（文部科学省教科調査官）  
出版社：東洋館出版

## 6月の教育研究所事業予定

1日 22日	(木) 第4回 初任者研修（道徳示範） (火) 第3回 教職10年経験者研修 （道徳・代表授業）
26日	(月) 標準学力結果説明【小】(厚)
27日	(火) 標準学力結果説明【中】(厚)
29日	(木) 第5回 初任者研修（特活示範）
30日	(金) 教育法規講座Ⅱ

# NARAEネット事業

## 【アドバイザリースタッフ派遣事業】

那覇市教育委員会と琉球大学教育学部との連携・協力事業で、琉球大学の先生方を校内研修等へ招聘して、教材研究や授業づくり等を一緒にやって研究することができます。また、昨年度は「キャリア教育」や「支持的風土のある学級経営」等の研修で活用した学校もありました。

★詳しくは、教育研究所Webページをご覧ください。



## 教職10年経験者研修

6月22日（木）の第3回 教職10年経験者研修では、道徳の代表授業を実施します。中核教員としてこれまでの実践をもとに道徳の指導における課題解決を図り、指導力向上を目的として実施します。

小学校2グループ、中学校1グループに分かれ、各グループで「道徳的価値の自覚を深める授業づくり」「考え、議論する道徳の授業づくり」等、共通課題に對して、グループ全員で授業をつくり、研修会で研究討議を行っていきます。



### (昨年度の様子)

## 標準学力結果説明会

平成29年度「標準  
学力調査結果説明会」

を厚生会館にて行います。6月26日（月）は小学校、27日（火）は中学校です。説明会後は、各学校で結果分析を行い、課題に対応した、授業改善に取り組んでいただきたいと考えております。